

献 辞

商学部は、2015（平成27）年度に、1965（昭和40）年の設置から数えて50周年、1905（明治38）年の現神田校舎の地での商科の創設から数えると商学教育110年を迎えました。さらに、平成32（2020）年4月には発祥の地・神田神保町に移設することが決まっています。こうした商学部にとって節目となる時期をともに支えてきてくださった、川村晃正教授、梶原勝美教授、関根孝教授、野呂進教授、前田和實准教授の5先生が古希を迎えられ、2016年度をもって本学を定年退職されることとなりました。

川村晃正教授は、1965（昭和40）年3月に栃木県立足利高等学校を卒業され、その年の4月早稲田大学商学部に入学されました。同学部を1969（昭和44）年3月に卒業後、民間企業勤務を経て、1972（昭和47）年4月、早稲田大学大学院商学研究科修士課程に進学され、1975（昭和50）年3月に同課程を修了された後、1978（昭和53）年4月、専修大学大学院経済学研究科博士課程に進学されました。そして、1981（昭和56）年3月に同課程を単位取得退学された後、専修大学商学部兼任講師を経て、1985（昭和60）年4月に専修大学商学部講師に就任されました。1987（昭和62）年に助教授、1995（平成7）年には教授に昇格されました。2000年（平成12）4月から実施された、商学部における全学に先駆けたセメスター制導入をはじめとする新カリキュラムの立案、実行をときの学部長のもとで着実に推進され、2005（平成17）年9月から商学部長を2期4年務められました。学部長時代の2006（平成18）年には、商業学科のマーケティング学科への名称変更が実施されました。川村先生の主要担当科目は「商業史」および「産業史」で、中心的な研究テーマは日本における織物業の発展で、少年期を過ごされた桐生など両毛地域の織物業の丹念な研究などに取り組まれてきました。

私事ながら、川村先生は、私が専修大学に入職した平成11年度にカリキュラム委員長（現在の教務委員長）を務めておられ、右も左もわからない新人教員に貴重なアドバイスをいただきました。その後、さまざまな場面でご一緒させていただき、私の青臭い議論に根気よく付き合ってくださいました。

梶原勝美教授は、1965（昭和40）年3月に東京都立戸山高等学校を卒業され、1967（昭和42）年4月、慶應義塾大学商学部に入学されました。同学部を1971（昭和46）年3月に卒業後、同年4月に慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程、1973（昭和48）年4月同博士課程に進学され、1976（昭和51）年に3月、同課程を単位取得退学されました。そして、同年4月に専修大学商学部講師に就任され、1981（昭和56）年に助教授、1988（昭和63）年には教授に昇格されました。学内での役職は、図書館委員会委員、学生寮指導委員会委員、教員資格審査委員会委員等を務められました。梶原先生の主要担当科目は「マーケティング」で、ご研究の中心課題はブランド・マーケティングに置かれ、『ブランド・マーケティング研究序説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』および『ブランド発展史』といった大作をまとめてらっしゃいます。

私事ながら、梶原先生は、同じ研究領域に属し、学科内でも同じくマーケティングコースに所属することから、さまざまな機会にご指導いただきました。

関根孝教授は、1965（昭和40）年3月に東京都立両国高等学校を卒業され、1966（昭和41）年4月、横浜国立大学経済学部に入學されました。同学部を1970（昭和45）年3月に卒業後、民間企業勤務を経て、1972（昭和47）年4月に横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程に進學され、1974（昭和49）年3月に同課程を修了されました。そして、同年4月、東京都立商科短期大学（現・首都大学東京）の助手に就任し、同短期大学助教授、教授を経て、1994（平成6）年4月、専修大学商学部に教授として入職されました。

学内での役職は、教員資格審査委員会委員、就職指導委員会委員、KSパートナーシップ・プログラム運営委員会委員、専修大学基本政策検討会議委員、社会知性開発研究センター研究員等を務められました。関根先生の主要担当科目は「商学基礎」および「マーケティング」で、ご研究の中心課題は家電製品流通に焦点を合わせた日・中・韓の比較研究に置かれ、『日本・中国・韓国における家電品流通の比較分析』（2014年4月、同文館出版）により、専修大学において博士（商学）の学位を取得されました。

私事ながら、関根先生は、大学（学部）の先輩であり、同じ研究分野に属し、学科内でも同じくマーケティングコースに所属することから、入職以来さまざまな機会にご指導いただきました。

野呂進教授は、1965（昭和40）年3月に青森県立弘前高等学校を卒業され、同年4月、日本体育大学体育学部に入學されました。同学部を1969（昭和44）年3月に卒業後、同大学の副手、助手、専任講師を経て、1977（昭和52）年4月に専修大学商学部講師に就任されました。そして、1979（昭和54）年に助教授、1991年（平成3年）に教授に昇格されました。学内での役職は、社会体育研究所長、体育部次長、スポーツ・ウェルネス・プログラム運営委員会委員、学生部委員、二部学生部委員、教養課程委員会委員等を務められました。野呂先生の主要担当科目は「スポーツウェルネス（ゴルフ）」、「スポーツリテラシー（ゴルフ）」、「スポーツ科学」等で、ご研究の中心な分野はスポーツ科学（スポーツ心理学等）で、研究テーマは大学駅伝選手の精神的特性に関する研究などにおかれています。また、野呂先生は日本体育大学在籍時、第6回バンコク大会（アジア大会）1500m 走で金メダル、3000m 障害で銀メダル、第7回テヘラン大会（アジア大会）1500m 走で銀メダル、3000m 障害で6位入賞という輝かしい競技成績をおもちで、専修大学入職後は陸上競技部のコーチ、監督を経て部長の重責を担われてきました。

私事ながら、野呂先生は、普段は青森出身の中距離陸上選手のイメージそのものの寡黙でダンディな方ですが、ある年の10月の教授会で、陸上競技部が箱根駅伝の予選を突破したとの報告をされたときの弾けるような笑顔がいまでも思い出されます。

前田和實准教授は、1965（昭和40）年3月に函館市立東高等学校を卒業され、1965（昭和40）年4月、函館大学商学部に入學されました。同学部を1969（昭和44）年3月に卒業後、同年4月に早稲田大学大学院商学研究科修士課程に進學され、1974（昭和49）年3月に同博士課程を単位取得退學されました。さらに、同年6月から1975（昭和50）年3月まで、第4回日墨政府交換留学生としてコレヒホ・デ・メヒコ大学院大学に留學されました。そして、専修大学経営学部兼任講師などを経て、1988（昭和63）年4月、専修大学商学部講師に就任し、1993（平成5）年に助教授（現・准教授）に昇格されました。学内での役職は、学生部次長、スポーツ・ウェルネス・プログラム運営委員会委員、高大連携連絡協議会委員、就職指導委員会委員、図書館委員会委員等を務められました。前田先生の主要担当科目は「グローバルビジネスとトレード（貿易実務）」および「国際分業と貿易（貿易理論）」で、ご研究の中心課題はヨーロッパにおける外国直接投資に関する研究に置かれています。

私事ながら、前田先生は、私が入職したばかりの頃から今日まで、学内でお会いするといつも明るく声を

かけてくださいました。とくにここ数年、体調を崩されてからも、逆に励ましのお言葉をいただくことが多く、本当に頭が下がる思いです。

2017（平成29）年3月をもって定年退職される5先生は、ちょうど専修大学商学部が設置された1965（昭和40）年の3月に高等学校を卒業され、それぞれ別々の道を歩みながら、何かの縁で商学部の奔流に合流されてきました。この先、商学部にはさまざまな試練が待ち受けていますが、ぜひこれからも商学部を見守り続けていただき、私たちを叱咤激励してくださいませようお願い申し上げます。

2017年1月吉日

商学部長 渡辺 達朗